

事業報告書

事業名 生ごみ堆肥の実験畑



- 1 実施団体 青梅・生ごみグルグルネット
- 2 担当課 清掃リサイクル課、農林課
- 3 実施時期 平成25年4月1日から平成26年2月28日まで
- 4 参加者 団体メンバー、モニター
- 5 実施場所 河辺町7丁目市民農園 (河辺町7-11-16)
- 6 事業の目的
  - ・ダンボールコンポストのモニターが作った堆肥の受け入れ場所をつくること
  - ・ダンボールコンポストでできた堆肥で作物栽培をし、十分な収穫が得られることを確かめること
- 7 役割分担
  - ・団体の役割
    - ①事業の実施
    - ②ポスター作成

- ・担当課の役割
  - ①広報おうめ、ごみリサイクル通信にて市民への周知
  - ②掲示板の作製
  - ③生ごみリサイクルシステムへの協力

## 8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ・多くの市民の目に触れる場所にある市民農園を借り、看板標記により事業を宣伝できるようになった。
- ・自宅に畑や庭のない集合住宅等に住んでいる市民でも使いみちに困らないよう、堆肥の受け入れ態勢が整った。
- ・コンポスト堆肥で栽培した作物を実際に配ることで、堆肥の有効性を知ってもらうことができた。
- ・広報おうめやリサイクル通信にて紙面を大きく掲載してもらえたことにより、いつもは流し読みしていた市民の目にも止まるようになり、関心を持ってもらいやすくなった。

## 9 目標達成

事業の目標： ①生ごみの減量を進めること

②ダンボールコンポストのモニター数の拡大

目標の達成具合：

- ・モニターの方のダンボールコンポストからできた用途のない堆肥を8件計約40kg（生ごみ換算約250kg）受け入れることができた。
  - ・ダンボールコンポスト講習会を春と秋に実施した。
- 減少傾向にあったモニター応募者数が事業を始めた春は目標数30名に対して15名参加で50%だったが、秋には27名で90%までになった。

## 10 事業の実施内容

- ・月1回の定例会で畑の手入れ、打ち合わせ
- ・堆肥の受け入れ（随時）
- ・ダンボールコンポスト講習会の1か月後に行う勉強会時に、ダン

ボールコンポスト堆肥からできた作物をモニターに配布  
 (春：じゃがいも、秋：さつまいも)  
 ・ 広報おうめ、看板、ブログでの事業の紹介

## 11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

## 12 まとめ（今後の課題や改善点など）

・市と協働で始めた事業であるが、堆肥の受け入れについては1年ですぐに効果や実績が大きく目に見えて表れるものではなく、継続していくことが必要である。

## 13 その他

生ごみはゴミではなく、再利用できる大切な「資源」であるということを市民に認識してもらえよう、また、ごみ袋有料化をいち早く導入した青梅市がごみ減量モデル市となるように、今後も市と協力して活動を続けていきたい。